



20 世紀メディア研究所主催／出版法制史研究会協力

日本学術研究振興会科学研究費補助金基盤研究 (B)

「占領期日本の情報空間－検閲とインテリジェンス」(研究代表者：梅森直之)

国際シンポジウム 「日本と東アジアの 検閲史と再考」



Reconsidering Censorship History in Japan and East Asia

第一部 戦前及び戦中期の検閲

7月20日 土 13時開始、1号館 401号室

開会挨拶 土屋礼子 (早稲田大学教授)

司会：浅岡邦雄 (中京大学文学部教授)

1 安野一之 (出版法制史研究会会員)

昭和初期の出版検閲

——内務省と出版者の相克——

2 ジョナサン・エイブル (ペンシルバニア州立大学教員)

パブリックとプライベートの境界

——戦前日本におけるキス表象の多義性——

3 高榮蘭 (日本大学准教授)

移動する検閲帝国と拡散する朝鮮／語

——『戦旗』『文芸戦線』『改造』『中央公論』の流通網から——

4 河原功 (台湾協会理事)

日本統治期台湾での「検閲」状況

第一部のディスカッション

コメンテーター：水沢不二夫 (東海大学非常勤講師)

第二部 占領期及び戦後の検閲

7月21日 日 13時開始、26号館 702号室

司会：土屋礼子 (早稲田大学教授)

1 中野正昭 (早稲田大学演劇博物館招聘研究員)

占領期の軽演劇検閲

——舞台娯楽にみる敗戦／終戦

2 山本武利 (早稲田大学名誉教授)

多重的ブラック化装置の中の占領期検閲

SUPPRESS

3 小林聡明 (韓国慶熙大学)

韓国における通信検閲体制の歴史的展開：

植民地支配・占領・独裁をこえて

4 何義麟 (台湾国立台北教育大学)

戦後台湾における検閲体制の確立

第二部のディスカッション

コメンテーター：梅森直之 (早稲田大学教授)

Handwritten signature of Naoki Umemiya

日時 7月20日 土・21日 日 13時開始

場所 早稲田大学 早稲田キャンパス <http://bit.ly/wasedacampus>

参加無料